

(様式2) 新規評価シート

建設部 砂防課

事業名	地すべり対策事業		路河川名等	(地)浅川南部				
事業毎の通番	1	市町村名	長野市	箇所名(ふりがな)	浅川南部(あさかわなんぶ)			
事業概要	事業目的	浅川南部 伺去地区にある地すべり指定区域では、近年、湧水現象や家屋傾斜のような地すべりの兆候と思われる現象が頻発に発生している。地元住民からも現地調査の依頼が多発していることから、地すべり調査及び対策を実施したい。						
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)	事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法				
	関連する事業、計画等	なし						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	民家67戸、西平公民館、伺去公民館、真光寺公民館						
	着手年度	平成31年度	事業期間	5年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成35年度	費用対効果	3.36	国庫	その他	県債	一般財源
全体事業内容(主な工種)	横ボーリング L=15,000m 集水井 3基			300,000	150,000	135,000	15,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	民家67戸の保全 西平公民館、伺去公民館、真光寺公民館の保全						
	間接的効果(定量的・定性的)	地域の安全性向上による地域の活性化						
評価の視点	必要性	○保全対象: 人家67戸 ○公共施設: 西平公民館、伺去公民館、真光寺公民館 ○要配慮者施設: なし ○河川への土砂流出量: 10万m3以上					評価	A
	重要性	○過去の災害履歴: 10年以内に1回以上 ○交通遮断による地域経済への影響: 大(県道 戸隠高原浅川線) ○地域防災計画上の位置付け: 長野市地域防災計画に記載あり					評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C) : 3.36 ○事業期間 : 5年間 ○工法等の比較検討: 高度な検討あり					評価	A
	緊急性	○地すべり滑動度: 軽微な動きがある(H29現地踏査で確認) ○地すべり変状: 変状あり ○下流の堰堤等の整備状況: なし					評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有: 関係者を中心に周知 ○地域の取組: 地域住民から地すべり変状について、度々調査依頼があるなど、意識が高い ○地域の合意形成: 地すべり指定地に指定済み ○住民との協働: 事業計画に関連した地域における独自の取組(自治活動等)あり					評価	A
	所管課意見	住宅も多く、ひとたび滑り出すと多くの財産や生命に関わる重大事なることが懸念されるため、対策を行いたい。				採択状況	総合評価	○ A
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。							

事業概要説明図表	【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)		
	位置図	平面図	
【整備の必要性がわかる状況写真等】	西平地区において地すべりが確認された		
	伺去公民の地すべり影響による被害状況		
事業周辺環境	①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	浅川南は地すべり指定地に指定されており、昭和60年から地すべり対策が行われてきた。平成15年には既成調査を実施し、既成判断をしているが、H28,29年度と地元から地すべり傾向が見られ、調査・対策を依頼されている。昨年度の現地踏査では一部で地すべりが確認されたことから本事業を実施するものである。	
	②地域からの要望経緯及び地域の関わり	H28、29年度に地すべり傾向の報告が多数あり、調査・対策を依頼されている。	
	③事業説明等の経緯	・H15年度に既成と成った旨説明・回覧を行っている。 ・H29年度は区長等を通して対策要望がり、その都度事業説明を実施。 ・地域全体への説明会は未実施。	
	④他事業・プロジェクトとの整合、関連	なし	
	⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	景観や自然環境に影響がないよう施工計画に配慮する。	
	⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により地域の安全性が向上し、地域の活性化に繋がる	
	⑦その他		
		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 138° 11' 48" 38 東経:E 36° 41' 11" 79

(様式2) 新規評価シート

建設部 砂防課

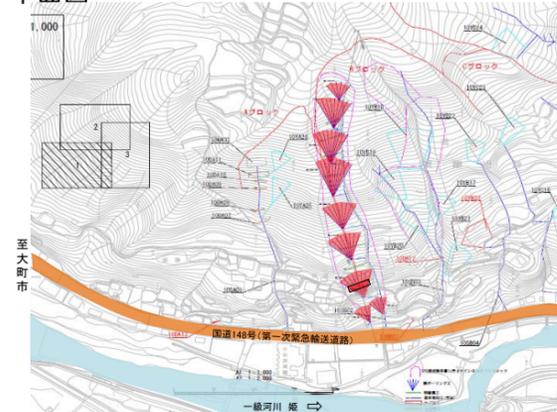
事業名		地すべり対策事業		路河川名等		(地)虫尾		
事業毎の通番		2		市町村名		小谷村		
事業毎の通番		2		箇所名(ふりがな)		虫尾(むしお)		
事業概要	事業目的	虫尾地区では、昭和40年代から地すべり対策事業を実施してきたが、平成29年に発生した台風21号により、B-1ブロックにおいて地すべり活動が活発化し、村道が崩落するなど被害が発生した。今後も大雨や融雪時に被害の拡大が懸念されている。よって、横ポーリング工及び明暗渠工の実施により県の第一次緊急輸送道路にも指定されている国道148号や一級河川姫川を保全し、民生の安定を図りたい。						
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1 県土の強靱化(災害に強いインフラ整備)		事業実施の根拠法令等		地すべり等防止法		
	関連する事業、計画等	国道148号 雨中バイパス(建設部 道路)						
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	国道200m、村道50m、一級河川姫川						
	着手年度	平成31年度	事業期間	3年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)		
	完成年度(見込み)	平成33年度	費用対効果	0.0	国庫	50,000	その他	45,000
	全体事業内容(主な工種)	横ポーリング工 L=2,500m 明暗渠工 L=200m		100,000	50,000		45,000	5,000
	事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	山腹の安定化					
		間接的効果(定量的・定性的)	地域に生活する人々の安全・安心な生活空間を確保し、定住人口の減少や減災が期待される。					
	評価の視点	必要性	○保全する河川：一級河川 姫川					評価
重要性		○災害履歴：平成29年台風21号(H29.10.26)					評価	A
効率性		○費用対効果(B/C)：1.08 ○事業期間：3年間 ○他事業との連携：他事業との連携あり(雨中バイパス)					評価	B
緊急性		○地すべり滑動度：降雨時に軽微な動きがある。					評価	A
計画熟度		○事業情報の共有：関係者を中心に周知(H30.4 地権者へ電話連絡)					評価	B
		○地域の取り組み：協力的である ○地域の合意形成：合意形成が図られている						
所管課意見	H30.4月に雪どけの際に崩落が発生、現在緊急連絡体制を確立している。既指定の地すべり区域あり、左右の対策ブロックの間の、未対策の部分移動が始まった。					採択状況	総合評価	
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。					○	B	

【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

位置図

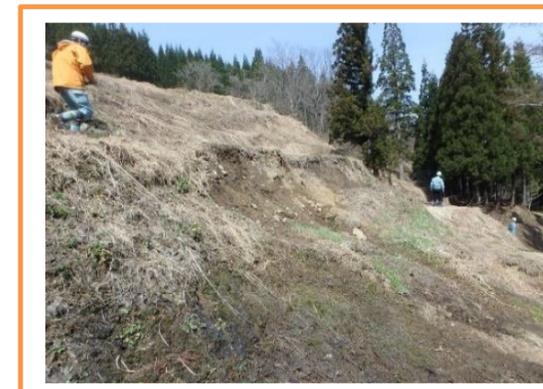


平面図



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



事業周辺環境

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	昭和40年代より地すべり対策を行われてきた箇所である。平成29年10月の台風21号の際は村道が一部崩落した。(現在も未復旧)
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	本事業箇所は第一次緊急輸送道路にも指定されている国道148号に隣接しているため、地元からの要望は強い。
③事業説明等の経緯	平成30年4月、すべての地権者へ被害の状況報告及び今後の事業への協力について了解を得ている。
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	雨中バイパス2号トンネルの北側坑口に隣接しているため、本事業の対策工法及び施工時等について大町建設事務所と調整中。(雨中バイパス完成予定 平成34年度)
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	
⑥地域活性化への影響と配慮	平成29年10月の台風21号により被災し現在も通行止めとなっている村道は、「旧 千国街道(別名【塩の道】)」とも呼ばれ、毎年5月に開かれる「塩の道まつり」には全国から約3,000人もの観光客が訪れており、早期の事業完了を目指す。
⑦その他	雨中バイパス2号トンネル工事と調整し、残土の利用や仮設ヤードの共有等によりコスト削減を検討中。

事業代表地点の緯度経度  
北緯:N 36° 47' 04" 40  
東経:E 137° 54' 50" 60

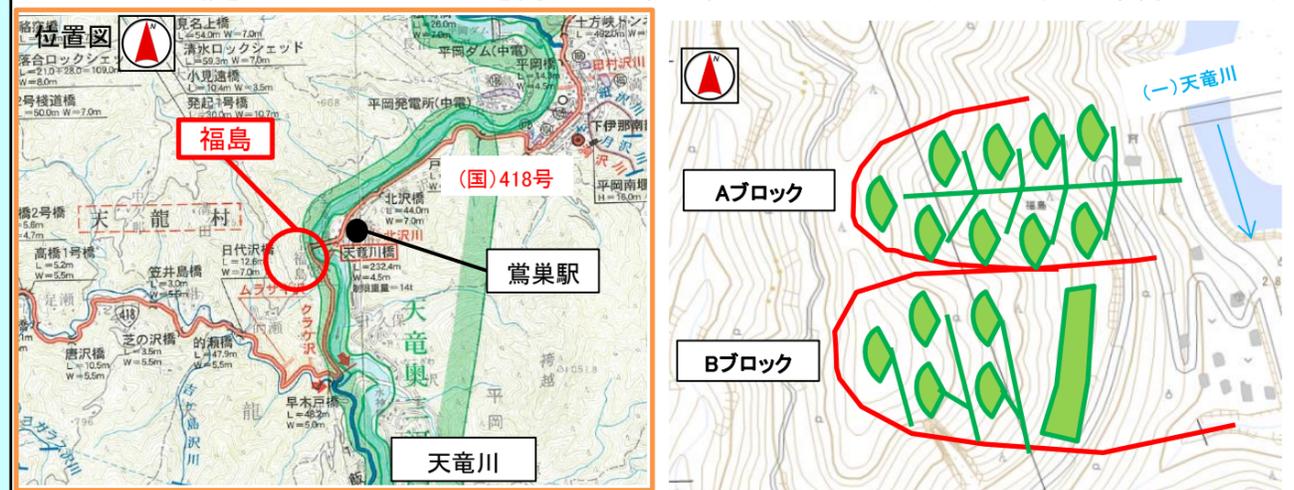
(様式2) 新規評価シート

部 課

事業名		地すべり対策事業		路河川名等		(地)福島			
事業毎の通番		○	市町村名	天龍村	箇所名(ふりがな)	福島(ふくしま)			
事業概要	事業目的	福島地区は、地すべり変動とみられる亀裂を道路や家屋に確認されるほか、比較的明瞭な滑落崖が確認され、地すべり地形をなしている、当該地域は、東海地震の地震防災対策強化地域に係る地震防災基本計画の重点地域にも指定され、震災際には国道418号及び(一)天竜川の閉塞等により当該福島地区はもとより下流やにも多大な影響があると考えられるため、早急の対策を必要とする。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	4-1-4 災害に強い地域づくり		事業実施の根拠法令等	地すべり等防止法				
	関連する事業、計画等	なし							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	人家15戸、国道L=250m、村道L=700m、郵便局、森林組合、水道配水池							
	着手年度	平成31年度	事業期間	年間	事業費(千円)	財源内訳(千円)			
完成年度(見込み)	平成39年度	費用対効果	8.0		国庫	その他	県債	一般財源	
全体事業内容(主な工種)	横ボーリング工 L=2,200m 水路工 L=800m 待受け式重力擁壁工 L=60m			500,000	250,000		225,000	25,000	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	山腹の安定化							
	間接的効果(定量的・定性的)	減災・定住人口の増加							
評価の視点	必要性	○人家戸数:15戸 ○公共施設:国道418号・郵便局・水道配水池 ○要配慮者利用施設:なし						評価	B
	重要性	○過去の災害履歴:なし ○交通遮断による地域経済への影響:大 ○地域防災計画上の位置付け:あり(福島集会所(避難施設))						評価	A
	効率性	○費用対効果(B/C):8.86 ○事業期間:5年 ○工法検討:検討中						評価	A
	緊急性	○地すべり滑動度:調査中 ○下流の堰堤等の整備状況:あり(概ね満砂)						評価	A
	計画熟度	○事業情報の共有:関係者を中心に周知 ○地元要望:協力的である ○地域合意:合意形成がはかられている。 ○住民との協働:住民参加型の事業(維持管理に住民参加が見込まれる)						評価	A
所管課意見	住宅も多く、ひとたび滑り出すと多くの財産や生命に関わる重大事なることが懸念されるため、対策を行いたい。				採択状況	総合評価			
					○	A			
技術管理室意見	所管課の意見を適当と認める。								

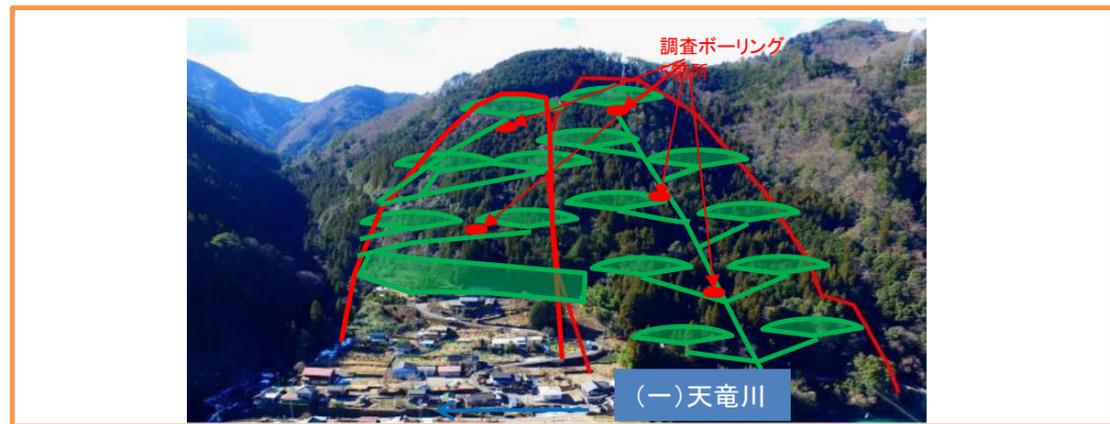
【位置図、平面図、構造図等】(縮尺任意ですが、見やすいもので)

(どこでどのような整備をする計画か。コメントや図形を駆使して一般県民にわかりやすいものとする。レイアウト等自由に変更してください。)



事業概要説明図表

【整備の必要性がわかる状況写真等】



①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	福島地区は、地すべり変動とみられる亀裂を道路や家屋に確認されるほか、比較的明瞭な滑落崖が確認され、地すべり地形をなしている、当該地域は、東海地震の地震防災対策強化地域に係る地震防災基本計画の重点地域にも指定され、震災際には国道418号及び(一)天竜川の閉塞等により当該福島地区はもとより下流やにも多大な影響があると考えられるため、早急の対策を必要とする。		
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地元自治会より、平成30年度に要望有り。		
③事業説明等の経緯	A・Bブロック対策工時着手時に地元説明を行う。		
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	他事業無し		
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	立木伐採を最小限とする。		
⑥地域活性化への影響と配慮	防災力の向上により、定住人口の減少を食い止めることが期待される。		
⑦その他			
		事業代表地点の緯度経度	北緯:N 36.6564018 東経:E 138.1562311